放射線科この１年

放射線科技師長　　前川　勝志

はじめに

H18年４月１から連石技師が新採用となった．名寄出身であり院内に同級生も何人かいて，職場にもすぐに溶け込むことができた．また，連石は５年目の技師で即戦力として５月の連休から救急業務をも担当してくれた．これからの活躍に期待したい．

業務量の変化

H18年12月時点でMRIを河野，CTを岩淵，RIを小野，AGを田村が担当した．
H17年に比べてH18年の全件数が66，111件で6．7％増加した．

各モダリティ別前年比でみると，一般撮影が5．2％，CTが16％，AGが24％，RIが23％増加し，MRI，ポータブルは昨年とほぼ同件数で骨密度が28％減少した．

CT検査においては，４月の診療報酬改定により，すべての撮影部位において820点が算出できることになり，年間で1，970件も件数が伸びたことは病院収益に大きく寄与している．また，AG件数も115件伸び，とりわけ循環器内科の件数が大幅に伸びている．それに伴って心臓RI件数ものびている．

また，昨年は「接遇重点項目」を設けヒヤリハット，医療事故防止に努めてきた．

今年は，それに加えて「基本的な確認を確実に行おう」をスローガンと決め業務を遂行してきた．しかしながら，大きな医療事故はなかったものの，H18年は，32件のヒヤリハットがあった．一人平均3．2件である．ゼロにすることは難しいとおもわれるが，全員がこのことを意識し，連携を計りながら限りなくゼロにしていかなければならない．

施設認定

近年，厚生労働省の政策のひとつである乳がん早期発見の啓発により，マンモグラフィの撮影件数が増加している．

昨年，河野を中心として準備をすすめてきたマンモグラフー施設認定を６月に受けることができた．この認定は，マンモグラフィー検診精度管理中央委員会（精中委）が行っており，認定試験に合格した医師・技師が在職し，なおかつ，撮影装置精度管理資料，実際に撮影したX線写真を精中委に送り，基準に達しているかどうか審査を受けるものです．

北海道での認定施設は，12月現在で22施設しかなく，市立病院では当院しかない．現在認定技師は３名だが今後増やしていきたい．

画像保管，配信

これまでCTとMRI画像だけはサーバに保管し，オーダリング端末で参照画像として診ることができたが，患者IDの打ち込み等の問題で一部の医師しか利用していなかった．

10月末に新たな画像サーバを導入し，12月に各診察室と病棟，救急室に画像専用のViewerを設置し，画像配信を開始した．オーダーリングとリンクさせることにより使い勝手が飛躍的に良くなり好評を得ている．配信画像もＣＴ，ＭＲＩ，ＣＲ，ＸＴＶ（一部）で，今後はすべてのモダリティ画像を配信（ＰＡＣＳ）し，ＤＰＣやフィルムレスに対応すべく準備をすすめていきたい．

Ｈ19年は

センター病院として，近隣病院との画像情報も含めたネットワークの構築を築いていきたい．これは，病院全体の問題であり，関係部署と連携をとりながら進めていきたい．

また，病院財政が厳しい時ではあるが，ＲＩ，ＸＴＶ等の大型機器の更新時期も考慮しなければならない．

装　置	一般撮影	X－TV	ポータブル	骨密度	小　計
	35,576	3,795	4,877	211	44,459
装　置	ＣＴ	ＭＲＩ	ＡＧ	ＲＩ	小　計
	14,267	6,076	597	712	21,652
					合　計 66,111